



みなみっ子

学校教育目標

自立

協働

創造

53 号

令和 8 年 8 月 18 日 (火)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

令和 8 年度 全国学力学習状況調査の児童質問の結果分析

児童質問の結果について、本校の児童の良い状況や課題を確認します。

まず、良いところについて、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的な回答が 87.5%で、全国平均を上回っています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」について肯定的な回答が 97.8%で、「人が困っているときは、進んで助けていますか」については 92.7%の児童が肯定的な回答をしています。その他にも「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」が 94.9%、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について 84.7%が肯定的な回答をしていて、いずれの回答も全国平均を上回っている状況です。一方、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については 95.6%の児童が当てはまると回答していて全国平均より良い状況にはありますが、数名は理由があればいじめを容認する状況にあります。

課題については、「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」については 31.4%の児童がほとんど話さないとしていて、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」も 8%の児童が当てはまらないとしています。

課題の要因について

①心理的な不安・恐怖

怒られる不安:「自分が悪いと言われるのではないか」「スマホやゲームの利用を制限されるのではないか」という恐れ。

大人を心配させたくない:「親を悲しませたくない」「忙しそうな先生に迷惑をかけたくない」という優しい気持ちからの遠慮。

状況の悪化への恐怖:イジメなどの場合、「言ったらもっと酷い目に遭うかもしれない」という懸念。

②言語化・感情理解の難しさ

うまく説明できない:自分のモヤモヤした気持ちや事実関係を順序立てて言葉にする語彙力がまだ十分に育っていない。

問題の深刻さがわからない:「これくらいで相談していいのかな」「自分が我慢すればいいだけかも」と思い込んでしまう。

③周囲の環境・関係性

話すタイミングがない:保護者が忙しそうに見えたり、学校の休み時間が短くて先生と 1 対 1 になれる時間がなかったりする。

過去の体験:過去に少し勇気を出して話した際、「そんなこと?」「あなたにも悪いところがあるんじゃない?」と受け止められた。

大人が「いつでも言ってね」と待つだけでなく、日常的に言葉に詰まっても否定せず最後まで聞く姿勢を見せたり、気持ちを言語化するサポート(「それは悲しかったね」「困ったなと感じてる?」などの言葉がけ)をしていくことが大切だと思います。

【内面の充実と学校での承認】

87.5%が「自分には良いところがある」と回答

貴校の児童は全国平均(85.6%)を上回る高い自己肯定感を持っています。



97.8%が「先生は良いところを認めてくれている」と実感

先生との信頼関係が非常に強く、学校が安心できる居場所になっています。

95.6%が「いじめは絶対にいけない」と強い倫理観を保持

善悪の判断が明確で、困っている人を助けたいという意欲も高い傾向にあります。

【社会貢献への意欲と帰宅】

人の役に立ちたい(肯定回答)

貴校 72.3%
全国公立 70.8%



84.7%が「地域や社会をよくしたい」と願っている

悩みを抱えつつも、社会の役に立ちたいという前向きな成長意欲を秘めています。

人の役に立ちたい(肯定回答)

貴校 72.3%
全国公立 70.8%

【学校の悩みと家庭での孤立】

約3割が「ほとんどの悩みを家族とほぼ話さない」

31.4%が「ほとんど」と回答しており、家庭での孤立が懸念されます。



約3割の児童が「学校の悩みを家族とほぼ話さない」

31.4%が「ほとんど話さない」と回答しており、家庭での孤立が懸念されます。

学校の悩みを家族と毎日話す(肯定回答)

貴校 9.5%
全国公立 14.7%

【相談への壁と未来への願い】

学校の大人への相談も「強く自信がある」のは**23.4%**のみ
先生を信頼していても、いざ悩みを相談するとなると躊躇する壁が存在します。



学校の大人への相談も

23.4%のみ

先生を信頼していても、いざ悩みを相談するとなると躊躇する壁が存在します。

先生・大人にいつでも相談できる(肯定回答)

貴校 23.4%
全国公立 33.9%